

# 図書館職員が選ぶおすすめの本

## ～中学年向け（小3.4）～



タイトル	石の卵
著者名	山田英春 // 文・写真
出版社	福音館書店
<p>《内容紹介》 「石の卵」ってなんででしょう？ 中から石がうまれてくる卵？ まっぴたつに切ると…。ふしぎ、ふしぎ、こんなの見たことない。まるで「ドラゴンの卵」です。石の卵の中はどうなっているのか、それがどうやってできたのか、ぜひ読んでみてください。</p>	

タイトル	象のいない動物園
著者名	斎藤 憐 // 作
出版社	偕成社（偕成社文庫もあり）
<p>《内容紹介》 このおはなしは、ほんとうにあったことをもとにしています。太平洋戦争後すぐ、ほとんどの日本の動物園には、象がいませんでした。戦争中、バクダンがおちオリがこわれてもうじゅうが町に出たら あぶないからといって、象やライオン、トラ、ヒョウなどをみな、ころしたからです。「上野動物園に象がほしい」とおもった、台東（たいとう）子ども会議（かいぎ）の子どもたちが立ち上がります。</p>	



タイトル	たべものくらべっこ えほん
著者名	柳沢 幸江 // 監修 高岡 昌江 // 文 すがわら けいこ // 絵
出版社	学研教育出版
<p>《内容紹介》 バターとマーガリン、シャーベットとアイスクリーム、てんぷらとフライとからあげ、どうちがうか知っていますか？ これを読めば、わかります。わたしの長年のぎもん、ビスケットとクッキーのちがいも、やっとわかりました。</p>	

タイトル	メリサンド姫 むてきの算数！
著者名	E・ネズビット // 作 灰島かり // 訳 高桑幸次 // 絵
出版社	小峰書店
<p>《内容紹介》 これは「知恵と勇気で、とびらは開く！」おはなしです。むかし、ある国にお姫さまが生まれました。なまえは、メリサンド姫。ようせいワルボラに「姫は一生つるつるのはげ頭になるだろう」とのろいをかけられ…。さあ、メリサンド姫はどうなるのでしょうか。</p>	



※裏面にその他のおすすめ本のリストがあります。対象年齢層は目安です。

# 図書館職員が選ぶおすすめの本

## ～中学年向け（小3.4）～

No.	タイトル	著者名	出版者	メモ
1	リトワニア民話（リトアニア民話） パンのかけらとちいさなあくま	内田莉莎子 // 再話 堀内誠一 // 画	福音館書店	
2	ふしぎなともだち	たじま ゆきひこ // 作	くもん出版	
3	時間（とき）の森～屋久島	山下大明 // しゃしん・ぶん	そうえん社	
4	ホネホネたんけんたい	西澤真樹子 // 監修・解説 大西成明 // しゃしん 松田素子 // ぶん	アリス館	
5	日本の材木 杉	ゆのき ようこ // 文 阿部 伸二 // 絵	理論社	
6	100万回生きたねこ	佐野洋子 // 作・絵	講談社	
7	ウェン王子とトラ	チェン・ジャンホン // 作・絵 平岡敦 // 訳	徳間書店	
8	はじめての古事記 日本の神話	竹中淑子・根岸貴子 // 文 スズキコージ // 絵	徳間書店	
9	読書介助犬オリビア	今西乃子 // 作 浜田一男 // 写真	講談社青い鳥文庫	
10	約束しよう、麒麟のリンリン いのちを守るハズバンダリー・トレーニング	森 由民 // 文	フレーベル館	
11	はしれ さんてつ、きぼうをのせて	国松俊英 // 文 間瀬なおかた // 絵	WAVE出版	
12	ぼくは、いつでもぼくだった。	いっこく堂 // 著 中村景児 // 絵	くもん出版	
13	「さやか」ぼくはさげんだ	岩瀬成子 // 作 田島征三 // 絵	佼成出版社	
14	あっぱれのはらうた	くどうなおこ // 詩・文 ほてはまたかし // 絵	童話屋	
15	そこから逃げだす魔法のことば	岡田 淳 // 作 田中六大 // 絵	偕成社	
16	泣くなツイ	長谷川集平 // 作 山本益子 // 絵	文研出版	
17	完訳 オズの魔法使い	ライマン・フランク・ボーム // 著 宮坂宏美 // 訳	復刊ドットコム	
18	大どろぼうホッツェンプロッツ	プロイスラー // 作 中村浩三 // 訳	偕成社	
19	長くつ下のピッピ	リンドグレーン // 作 大塚勇三 // 訳	岩波書店	
20	ニルスが会った物語1 まぼろしの町	セルマ・ラーゲルレーヴ // 原作 菱木晃子 // 訳/構成 平澤朋子 // 画	福音館書店	